

ひょうごの遺跡

鳳凰の大刀飾り ～三木市 窟屋1号墳～

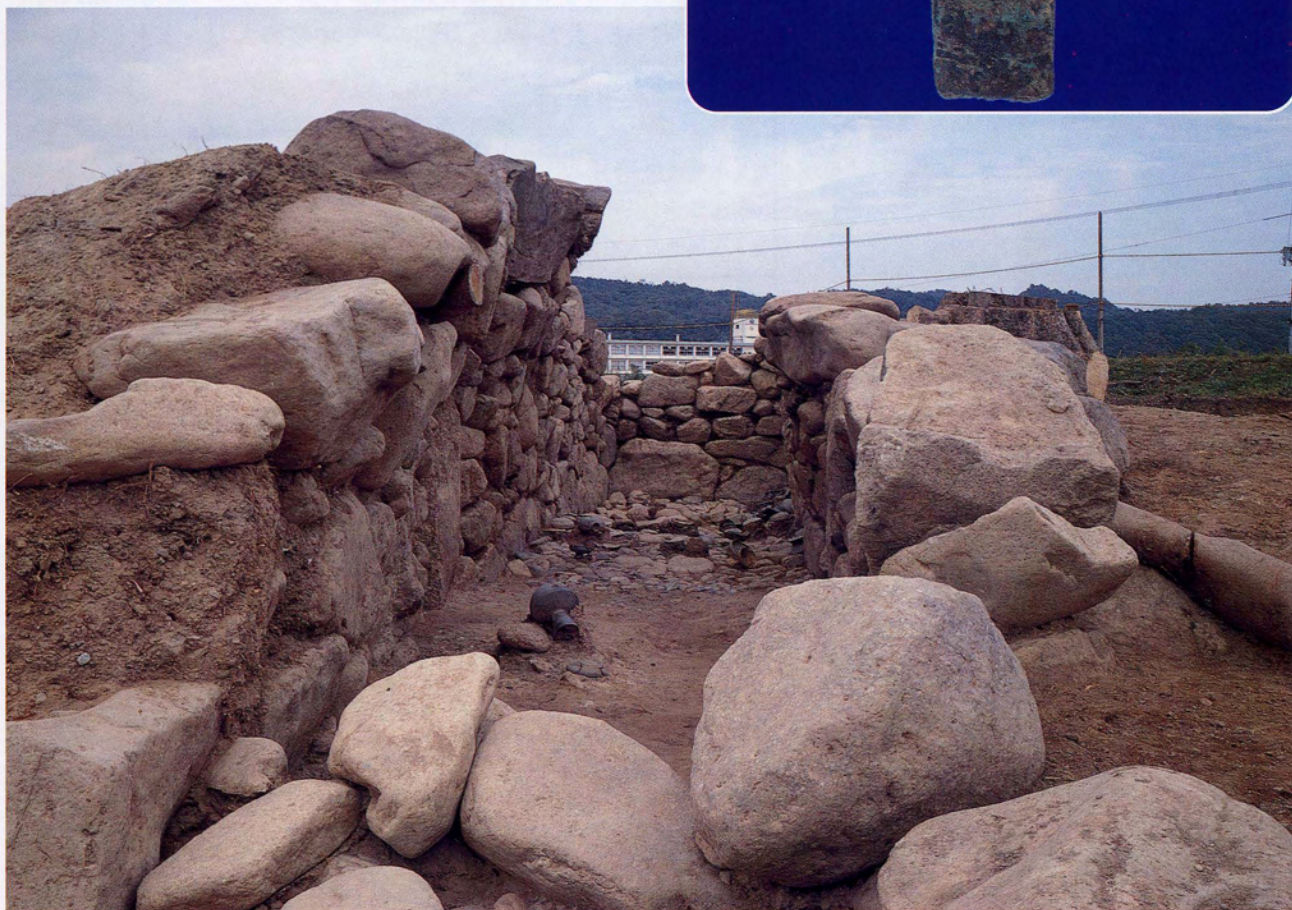
いわず 窟屋1号墳は三木市東部の志染町^{しじみ}窟屋に所在する古墳です。(仮)県立三木総合防災公園へのアクセス道路となる県道平野三木線の道路整備工事が行われるに先立って、平成13年10～12月に発掘調査を行いました。その結果、6世紀後半の古墳から^{こんどうそうたんぼうかんとう}金銅装単鳳環頭大刀の^{つかがしら}柄頭が出土しました。

「やったー!!!」 夕暮れ時の発掘現場に調査員の喜びの音が響きわたった。

石室の前の少し黒っぽい土の中から、環状の把手のようなものが出土したのだ。

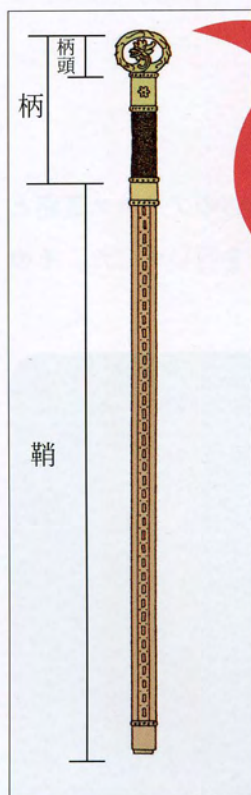
小ぶりながらもずっしりと重く、輪っかの真ん中には横を向いた龍か鳳が作り出されている。

そして、表面についた土の隙間は金色の輝きがみえる。これは環頭大刀の柄頭であるようだ。



鳳凰の大刀飾り

柄頭の出土に興奮したものの、担当した調査員も博物館でしか見たことのないようなものです。とりえず環頭大刀の柄頭であることがわかりましたが、表面には土がついているため文様の細かいところまでは見えません。土を取り、表面の鍍金（とぎん）などがこれ以上傷まないようにするため、保存処理担当者に処置をゆだねました。そして、表面に塗られた金や中心部の鳳凰や環状部の龍の細かい細工が明らかとなりました。



柄頭とは大刀の柄の先端に取り付けられた装飾品です。大刀は柄頭の装飾の仕方ではいくつかの種類に分かれ、今回出土したものは環の内側に竜や鳳凰が単体で表現された単竜・単鳳環頭大刀と呼ばれています。環状の部分には竜が描かれ、環の中央には1羽の横を向いた鳳凰の頭部が作り出され、嘴（くちばし）は玉をかんでいます。細部の作りは竜の鱗や鳳凰の羽毛を丁寧に表現しており、非常に精巧です。本体の青銅の表面に鍍金（金を水銀に溶かしメッキしたもの）がほどこされ、鳳凰の口の中に水銀朱が塗られていました。今回出土したものはその形から西暦500年頃に作られたものと考えられます。

本来は金銅装の金具の付いた鞘（さや）や刀身と一体となっていたのですが、刀の本体は盗掘によりバラバラに破損され、鞘に付いていた金具もわずかに残存するのみです。

このような金銀で飾られた刀は、装飾付大刀と呼ばれています。大和政権から地方の有力者に与えられたものと考えられ、古墳に葬られた人の地位の高さをしめす貴重な証拠です。

単竜・単鳳環頭大刀は瀬戸内海沿岸地域の特定の地域に集中して多く分布しており、当時の政治情勢を示す遺物としても注目することができます。

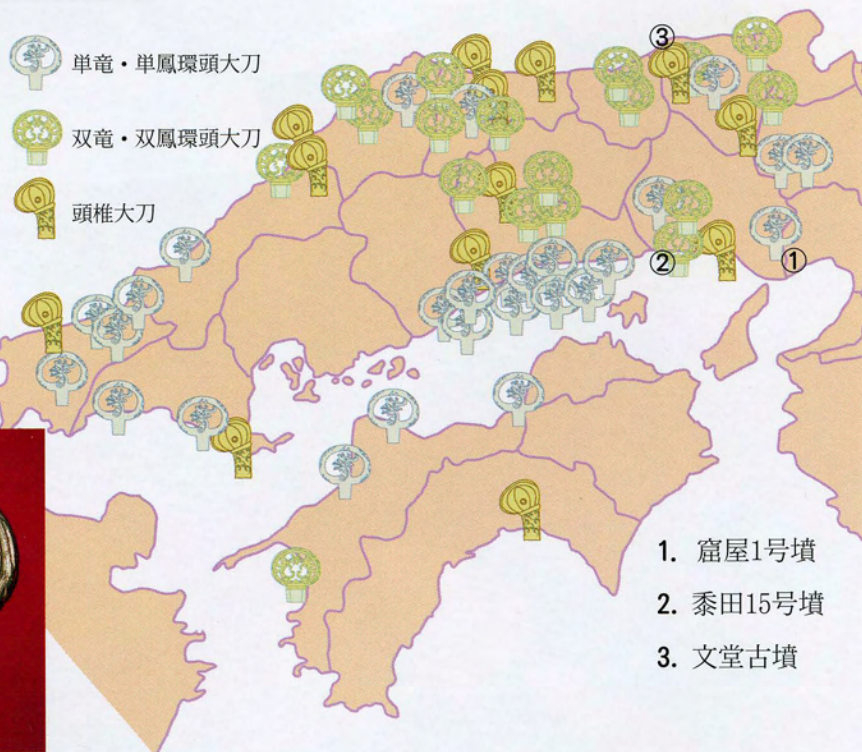
兵庫県内では、揖保川町の黍田13号墳からは2頭の龍が向かい合った双竜環頭大刀が、村岡町文堂古墳から頭椎（かぶつち）大刀といった別の種類の装飾大刀も出土しています。



村岡町教育委員会



揖保川町教育委員会



岡山県北房教育委員会『定東塚・西塚古墳』所載分布図に加筆

古墳のすがた

窟屋1号墳は、地元で「どっこいさん」と呼ばれている六地藏の背後にある小さな塚にすぎませんでした。しかし発掘調査によって、予想外に残りのよい立派な古墳であることがわかりました。

この塚の中から現れたのは横穴式石室です。石室の天井石は失われていますが、比較的好く残っていました。全体は長さが11mと長大なのが注目されます。近くでは大きな石が採取できなかったためか、小さな川原石を積み上げ、大変苦労して構築しています。長さの割に幅が狭いのは、石が小さいことが原因でしょう。

石室は棺の置かれた部屋（^{げんしつ}玄室）とそれに至る通路部分（^{せんどう}羨道）に分かれ、外側には石室にいたる道（^{ぼどう}墓道）が付けられていました。

環頭大刀の柄頭は盗掘のため埋葬当時の場所ではなく、墓道から出土しました。

石室の内部は木棺のあった場所が盗掘を受けていますが、壁際の副葬品（須恵器・鉄製品など）はよく残っています。なかでも須恵器の器台や花びら形の飾り金具のついた馬具などは珍しいものです。

古墳の造られた時期は、出土した須恵器からみると西暦585年頃で大刀が作られた時期より新しく、その後610年頃まで追葬が行われたようです。

縮見屯倉と古墳の被葬者

窟屋1号墳より少し東に行くと『古事記』・『日本書紀』や『播磨国風土記』に載っている億計・弘計二王子（後の仁賢・顕宗天皇）が一時避難されたと言われている志染の石室があります。『日本書紀』によると雄略天皇に父を殺された億計・弘計の二人の王子は、三木の志染の地に逃れました。そして、その地の有力者である縮見屯倉首忍海部造細目の召使いとして身を隠しました。その後、二王子はこの有力者の新築祝いの宴会時に、播磨国守の山部連少楯に見いだされて都に帰り、跡継ぎのいない清寧天皇の次に即位することとなります。これらの記事は、その内容のすべてが史実であるとは認められていませんが、この地域と中央政府との結びつきを示す数少ない史料といえることができます。

これらの記事に見える天皇家の直轄領である縮見屯倉の存在と環頭大刀柄頭などの出土品などを考えあわせると、古墳に葬られた人物が、屯倉の管理者である忍海部造細目のような中央と密接に関係をもった有力者であることは十分に想像できるでしょう。

窟屋1号墳は今回、石室内の調査が終わった後に埋め戻しました。六地藏とともに移築されることが決まっていたからです。今後、石室の移築先が決まれば、墳丘の調査をした後、石室の解体・移築して、改めて公開されるでしょう。このような地域の歴史遺産が守られることは、私たちにとっても非常にうれしいことです。



年代	天皇	事項
471	雄略	稲荷山鉄剣
478		倭王武、宋より安東大將軍の称号を受ける
479	清寧	志染の石室の伝承はこの頃
485	顕宗	
488	仁賢	
498	武烈	
507	継体	
527		筑紫国造磐井の乱
531	安閑	
535	宣化	
539	欽明	
562		この頃、単鳳環頭大刀が作られる
572	敏達	新羅、加羅を滅ぼす
585	用明	この頃、窟屋1号墳が造られる
587	崇峻	蘇我馬子、物部守屋を滅ぼす
592	推古	蘇我馬子、崇峻天皇を暗殺
593		聖徳太子、摂政となる
603		冠位十二階制定
604		十七条憲法制定



六地藏（どっこいさん）

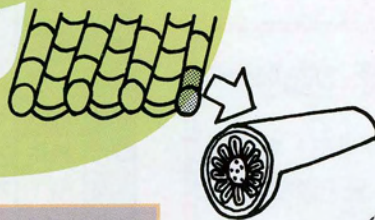
1・5・9の光と影

遺跡から出土する昔の人の道具や建物には、絵や模様が描かれている“芸術作品”があります。ここでは、平成13年夏に調査が行われた赤穂郡上郡町の竹万宮ノ前遺跡で発掘された3点の芸術作品を、模様を浮き上がらせる技術という角度から紹介したいと思います。題して「1・5・9（一刻）の光と影」。その心は、1世紀の弥生土器に描かれた動物のような絵と、5世紀に韓国から伝わった焼き物（須恵器）に刻まれた文様と、9世紀初め頃の役所や寺院の屋根に葺かれていた瓦の蓮の模様にあります。この3つの時期の特徴的な模様や絵を、光を取り入れて映像を浮かびだす写真と、印影によって文様を際立たせる拓本の2つの方法をご覧ください。

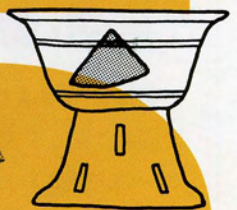


奈良時代から平安時代にかけて建てられた寺院や役所の屋根には、瓦が葺かれていました。軒先に葺かれていた丸い瓦（軒丸瓦）には、13弁の花びらと5つの蓮の穴（蓮子）が表現されており、このような模様を持つ瓦は「古大内式」と呼ばれています。

コンパス文須恵器



古大内式軒丸瓦

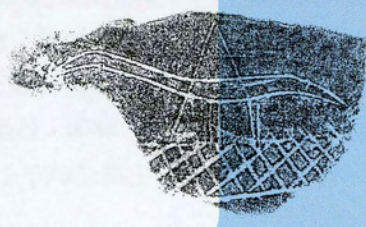


三本足のコンパスのような道具を使って、中心から二重の半円弧を反転させて交互に描いた文様です。このような「コンパス文」が描かれた須恵器は日本では他に2例しか発見されておらず、韓国東南部（洛東江下流域の伽耶地域）に起源があると考えられます。

壺の内側に描かれた絵画



弥生時代後期につくられた壺の内側に、動物のような絵がはっきりと描かれています。鳥のような頭と竜のような体をしており、足が4本ありますが一体何の動物でしょう。また、動物の足元には带状に斜格子状の模様が描かれていますが、船のようにも屋根のようにも見えますね。



何の動物に見えますか？

(((夢中になるぞ! 考古学体験)))

平成14年度の県内での文化財教室などの予定

こどもたちにとって大切なのは、本物を見たり触ったりすること、様々な謎に挑戦してみること、単なる知識としてではない実際の体験です。

写真や絵ではなく目の前にある本物。粘土や石の塊から自分の手で作り出す古代。

案外難しくて、でも夢中になる昔の暮らしの体験。再現してみてもわかる昔の人達の工夫・技術。

たとえ小さな土器や石器のかけらであっても、「本物」を掘り出した感動。

体験から広がる古代への思いは、目や耳や指先、におい・味も含めた様々な感覚を総合した立体的な記憶として深く心に刻みこまれることでしょう。もちろんこれはこどもたちだけの特権ではありません。きっと大人たちだって夢中になるはずです。

私たちの事務所をはじめ、県内各市町の文化財担当部署・施設では、そんな体験をできるだけ多くの方々に味わっていただくために、様々な催しを企画しています。

まだ、来年度の計画作成途中の時期でもあり、未定のところも多く、追加や変更があるかもしれませんので、詳しいことは、お近くの教育委員会や資料館にお問い合わせください。また、今後各地からよせられた情報は、随時事務所のホームページでも公開する予定ですので、そちらもぜひご覧ください。

GO! ACCESS <http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

主催	名称	内容	対象	実施時期	実施場所	申込先	備考
埋蔵文化財調査事務所	展 示	県指定重要文化財展(考古資料) 常設展 特別展	一般	春 夏 秋	埋蔵文化財調査事務所	申し込み不要	
	施設見学	出土品整理作業等の見学	学生・一般	随時	埋蔵文化財調査事務所	同左	
	文化財探査学会講演会	全国の文化財探査成果の発表	一般	6月8・9日	明石文化博物館	申し込み不要	
	史跡ボランティア	草刈り		未定	竹田城ほか		
県立文化体育館	“時の物差し”土器の徹底研究Ⅰ	埋蔵文化財基礎講座	一般	前期5～9月 後期10～2月 (月1回計10回)	県立文化体育館	同左	有料
県立歴史博物館	実技講座	勾玉づくり	一般	8月25日	県立歴史博物館	県立歴史博物館普及課 (0792-88-9011)	博物館友の会と共催 (参加費不要)
		土器づくり	一般	10月20日			
	歴史講演会	兵庫県の旧石器時代	一般	10月6日			
	歴史の旅	古代山陰道周辺を辿る	一般	5月19日	山東町周辺		
	県博物館歴博ゼミナール	米はどこからきたのか -稲作のルーツについて-	一般	1月12日	県立歴史博物館	申し込み不要 (先着順)	
		弥生時代の播磨	一般	12月8日			
	秋の特別展「古代兵庫への旅 -奈良・平安の役所と寺院」	講演会・展示解説	一般	展覧会開催期間中 (10月12日～12月1日)		申し込み不要	講演会も企画中
(財)兵庫県芸術文化協会	埋蔵文化財教室	シルクロードの 仏教遺跡を訪ねて	一般	4月～2月 計10回	県民会館10階 (福の間)	(財)兵庫県芸術文化協会 生活文化大学係 (078-321-2002)	有料

主催	名称	内容	対象	実施時期	実施場所	申込先	備考
西宮市立 郷土資料館	こども・れきし・たんけん (第1回)	西宮の文化財などを 現地で学習	小・中学 生	6月8日	未定	申し込み 不要	いずれも現 地集合。 歴史ハイキ ングは県外 で実施の場 合もあり。 (0798) 33-1298
	こども・れきし・たんけん (第2回)	西宮の文化財などを 現地で学習	小・中学 生	平成15年 3月8日	未定		
	歴史ハイキング (第13回)	摂津の文化財などを 歩いて見学	限定 しない	5月18日	未定		
	西宮北口、発掘報告会(仮)	発掘調査成果の展示会 に伴うスライド報告会	一般	9月15日	郷土資料館	申し込み要	
	歴史ハイキング (第14回)	摂津の文化財などを 歩いて見学	限定 しない	10月26日	未定	申し込み 不要	
	指定文化財公開	市内の指定文化財の 展示公開	限定 しない	11月3日	郷土資料館	申し込み 不要	
川西市文化 財資料館	夏休み子供考古学教室	未定	市内小学校 5・6年生	7月20日頃	文化財 資料館	同左	
尼崎市教育 委員会	ドキ・土器ふれあい講座	発掘調査で出土した土器や 石器など実物資料を教材と して学習	市内小・中 学生等	通年	各学校等	教育委員会	
芦屋市立 美術博物館	子ども体験学習教室	銅鏡づくり	小学生	7月下旬	美術博物館	同左	日程・内容 の詳細未定
神戸市教育 委員会	大歳山まつり	勾玉工房・縄文クッキー ハウス・土器工房等	一般	11月初旬	大歳山遺跡 公園	申し込み 不要	
	ドロだらけでなにしとん展	出土した土器がどのよ うな流れで展示される ようになるかを解説	一般	春季			
	古代の音色	人間と音の関わりの方 料を展示	一般	秋季	埋蔵文化財 センター		
	考古学講座	勾玉づくり・石包丁づ くり。縄文クッキーづ くり・赤米づくりなど	小・中学校 ・一般	通年		同左	広報こうべ にて募集
播磨町 郷土資料館	古代生活にチャレンジ	土器づくり 勾玉づくり 石器づくり 生活体験等 20以上の教室	小・中学生 ・一般	通年 (予約の必要 な教室も あり)	郷土資料館 大中遺跡	郷土資料館 (0794)35-5000 内容・時期等の詳細は ホームページで http://homepage2.nifty.com/h-onaka/	
明石市立 文化博物館	体験講座	未定	小・中学生	7～8月頃	文化博物館	同左	詳細未定
小野市 教育委員会	サマーセミナー 弥生土器を作ろう	土器づくり	小・中学生	8月1日 及び22日	好古館	同左 (FAX・ハガキ)	予定 (0794) 63-3390
加西市 教育委員会	文化財体験講座	勾玉づくり 古代織物 土器づくり 草木染	学生 ・ 一般	未定	玉丘史跡 公園	文化財係 (FAX・電話・ ハガキ・メー ル)	詳細未定 (0790) 42-8770
加東郡 教育委員会	考古学宅配便	遺跡や写真などを希望 の場所に持参し、展示・ 説明をする。	一般	通年	郡内 どこでも	教育委員会 教育課 (電話で)	(0795) 42-5830
中町 教育委員会	おもしろ考古学セミナー	未定	一般	未定	未定	教育委員会 (0795) 32-2385	
加古川市 教育委員会	本岡家住宅特別公開	元禄7年建築の大型民家 (県指定文化財)の公開・ 解説	学生 ・ 一般	11月24～ 30日	東神吉町 天下原 715-5	生涯学習 推進室 (0794) 27-9349	11月25日は 除く
	文化財講座	未定	中学生 以上	10～11月 週末3回	未定		

主催	名称	内容	対象	実施時期	実施場所	申込先	備考
高砂市 教育委員会	親子歴史体験教室	古代楽器づくり		7月14日			
		火おこしの道具づくり	小学3年生 以上と 保護者	7月28日	教育センター		
		勾玉づくり		8月4日			
		石器をつくってつかう		7月21日	市の池公園	教育センター (0794) 48-4191	高砂市内の 小学校が 対象
	春季移動歴史教室 (原始・古代の高砂)	市内出土考古資料の展 示・解説や、土笛・石 器・火おこしの体験	小学校(6 年生の児 童と教師)	4月上旬～ 5月中旬	希望する 市内 各小学校		
	冬季移動歴史教室 (むかしのくらしや道具)	江戸～昭和の暮らしの道 具を展示・解説・体験	小学校(3 年生の児 童と教師)	平成15年 1月中旬 ～2月中旬			
	文化財講座	未定	高校生 以上	5月・11月 各1回	教育センター		
福崎町 教育委員会 町立神崎郡 歴史民俗 資料館	ふくさき歴史探検隊	土器づくり 勾玉づくり	町内 小学校 児童 (5・6年生)	9～10月頃	歴史民俗 資料館 青少年野外 活動センター	資料館所定 の申込用紙 (0790) 26-5699	歴史探検隊 は年間8～10 講座開催
香寺町 教育委員会	第6回 ふるさと再発見 「ふれあいウォーク」	町内の史跡・神社 等を歩いて巡る	児童生徒・ 一般	10月26日	町内	生涯学習課 (0792) 32-0001 当日現地受付	参加費 100円
市川町 教育委員会	夏休み体験教室	土器づくり・染色ほか	小学生 (親子参加 歓迎)	夏休み	文化センター	教育委員会 (0790) 26-1010	
龍野市 教育委員会	みる・きく・ふれる 考古学体験	出土品の見学と 土器づくり	児童生徒・ 一般	7～8月の 週末(未定)	埋蔵文化財 調査事務所	社会教育課 (0791) 64-3180	詳細は市 広報等で
一宮町 教育委員会	資料館歴史講座	町内文化財・歴史の 史料講読・講演・見学	一般	5月～11月の 主に第2・4 土曜日 (10回程度)	歴史資料館	同左 (0790) 74-8855	当日のみの 参加も可
赤穂市 教育委員会	有年地区遺跡公園体験学習会	勾玉づくり他 復元住居など公園の 施設を使った体験学習	小学生 保護者	7～12月 (未定)	東有年 沖田遺跡公園 有年原 田中遺跡公園	生涯学習課 (0791) 43-6858	要予約
養父町 教育委員会	石ヶ堂古代村まつり 古代のくらし体験教室	土器づくり・勾玉 づくり土笛づくり・ 火おこし等	学生・ 一般	6月2日	石ヶ堂 古代村	当日現地 受付	無料
森古代村 開発組合	石ヶ堂古代村 古代体験教室			通年 (常設)	森古代村 開発組合 (0796) 66-0366		有料
温泉町 公民館	子どもいきいきクラブ事業 縄文人になってみよう	勾玉・石器づくり 火おこし	学生・ 一般	6月中旬～ 下旬の週末	古代体験の 森 (美方町)	町公民館	詳細未定
	同 埴輪と縄文土器を作ろう	土器づくり		11月中旬～ 下旬の週末	八田 コミュニティ センター		
北淡町 教育委員会	自然ふれあい講座	しおづくり・勾玉づくり	小学生～ 一般	8月24日・ 11月30日		震災記念 公園セミナー ハウス	人数制限 あり
	町の文化財を訪ねて	史跡めぐり	小学生～ 一般	未定	町内	資料館	人数制限 あり (年4回予定)

国指定史跡 置塩城跡

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所では、県下の市町教育委員会が行う重要な史跡の調査に共同調査という形で参画しています。今年度は夢前町の国指定史跡置塩城跡おきしおの第1次確認調査などに職員を派遣して協力しています。

置塩城跡は赤松政則が文明元年（1469）に築いたといわれ、守護の居城として有名な中世山城です。

標高370mの城山山頂には東西600m、南北400mの範囲に70箇所以上の郭が築かれ、随所に残る石積みとともに広大な遺構群を形成しています。今回の調査は4カ年計画の初年度にあたるもので、第Ⅴ郭群を中心に実施しました。

この結果、広大な遺構は戦国時代末期（16世紀）の大改修によって形成されたもので、政則の頃にはまだ十分な施設がなかったことがわかりました。山城が巨大になった時期は赤松氏の力が衰えていた頃



で、この時期になって多くの家臣が城内で住んだようです。窮地にあったとはいえ、播磨国内での当時の赤松氏の勢力を示す証拠といえるでしょう。

上の写真は、現地説明会風景です。険しい山道をもとめず、熱心なファンの方々に多数お集まり頂きました。

埋文事務所へようこそ！

私どもの事務所では、地域に密着した施設をめざし、PR活動につとめています。地元住民のみなさまにお願いしたアンケート調査では、まだまだ知名度不足であることがあきらかになりましたが、文化財を私たち共有の財産として、生涯学習の場に活用するための試みにこれからどんどん取り組みたいと思っています。

現在、企画展「考古学からみた米の文化ーお米とくらし」を公開中です。（4月19日までの平日10時～16時）小学生にもわかるようにといろいろな工夫をこらしました。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



文化財愛護シンボルマーク

編集後記

4月からの新年度に向けて、学校や地域のグループの学習の計画に取り入れていただけるよう、少し早いですが来年度の県内各地の文化財を活用した取り組みの情報を集めてみました。

慌ただしい時期に無理をいってご協力いただいた各地の教育委員会のみなさん、どうもありがとうございました。これからも、どんどんいろんな情報発信に努力しますのでご期待下さい。